

## 第71回卒業式



卒業式当日は、菜種梅雨でしとしとと小雨が降るあいにくの天気となりました。しかし、雨も吹き飛ばす元気な笑顔で卒業生が登校してきました。

「卒業生入場」の合図とともに「威風堂々」の曲が流れる中、舞台から一人一人胸を張って入場しました。

続いて卒業証書授与では、一人一人「夢の実現に向けてがんばります」「学習と部活動を両立します」など、将来の夢や中学校での抱負を言ってから卒業証書を堂々と受け取りました。受け取った卒業証書をお母さんやお父さんに感謝の言葉を添えながら渡しました。

『お祝いの言葉、お別れの言葉』では、卒業生が入学式からの小学校生活6年間の思い出、在校生へのバトンタッチ、これまでの感謝の気持ち、そして未来への決意を、合唱を交えながら伝えました。それに対して、在校生が、お祝いの言葉や合唱で応えました。どちらも、気持ちのこもった言葉や合唱で、感動が広がりました。

『卒業生退場』では、在校生が「この星に生まれて」の曲を合唱する中、6年間の思いを胸に花道を歩んでいきました。

式が終了してから教室に戻り、最後の学級活動を行いました。そして、みんなで記念撮影をしてから慣れ親しんだ教室に別れを告げました。



門出は、別れを惜しむような霧雨の中、在校生が作る花のアーチの中を、保護者、来賓、職員に祝福されながら巣立っていきました。その表情には、「中学校でがんばるぞ!」という決意が表れていました。



## 式 辞

冬の寒さもやわらぎ、桜のつぼみも日ごとにふくらんでまいりました。このよき日に、十四山東部小学校 第71回卒業生として巣立っていく21名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いをいたします。



さて、卒業生のみなさん、小学校生活をふり返って何を思い出してください。難しい問題に悩みながら学習した教科。協力して練習に取り組む、やりとげた運動会や学芸会などの行事。「えがお いっぱい」「くふう いっぱい」「ちから いっぱい」の合い言葉で小学校生活六年間がんばりました。そんなみなさんの取り組む様子からは、『協力』という言葉が浮かんできます。少ない人数で大勢の低学年のめんどろをみながら、運動会などの行事、ふれあい班活動など、いろいろな場面での取り組みは、いつも力を合わせ、確実に成果につなげてくれました。こうしていつも優しく学校全体を引っ張ってくれるので、全校が一つとなって進んでいくことができました。これからも、それぞれの夢に向けて、力を合わせ、全力で進んでいってください。

最後に、みなさんの晴れの門出にあたって、次の言葉をはなむけにします。

それは、『失敗したところでやめてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければ、それは成功になる』というものです。これは、有名な電機メーカーのパナソニックを創った松下幸之助さんの言葉です。彼の口癖は、『もういっぺん』だそうです。失敗であきらめず、『もういっぺん』を繰り返して、日本一の電機メーカーを創り上げました。みなさんがこれから進む中学校の生活では、いつも失敗がつきものです。しかし、そこで『もういっぺん』を繰り返すことで、失敗が成功に変わります。この「あきらめずに続ける心」で、実り多い中学校生活にしていってください。

みなさんが、十四山東部小学校で学んだことを誇りにして、勇気をもって一步步前へ進んでいってくださることを期待しています。みなさんの未来に幸多かれと、心から祈りながら式辞といたします。

『いってらっしゃい!』

